家庭数配布

学校だより

子どもの「やる気」を育てます

６月号　　令和７年５月３０日
西東京市立保谷第一小学校
校　長　　原　　之　雄
〒202-0004　西東京市下保谷1-4-4
TEL042-422-4513　FAX042-424-7117
http://www.nishitokyo.ed.jp/e-houya1/
e-mail e-houya1@nishitokyo.ed.jp

保谷第一小ホームページ
QRコード

努力するものは楽しむものに・・・

校長　原　　之雄

海外で行われた調査によると、アメリカ人の余暇時間は 1965 年から一貫して増加し続けており、同様の傾向はヨーロッパにおいても見られるそうです。にもかかわらず、いつも忙しく感じるのはなぜか。ベンジャミン・フランクリンによる「時は金なり（time is money」という格言に象徴されるように、我々現代人は仕事のために１日の時間の相当な部分を費やすことによって生活の糧を得ます。時間が金銭に換算されることで人々は時間の消費を金銭の消費と等価に扱うようになり、その結果時間の浪費（無駄遣い）を嫌い、時間を効率的に使いたい、と感じるようになる。今風に言えば「タイパ重視」ということになるでしょうか。ですから自由な時間があっても、何もせずに過ごすことが非生産的で勿体なく感じ、そこに何某かのスケジュールを入れようとする、こうなるといくら時間があっても「忙しさ」からは抜け出せなくなってしまう…分かってはいるのですが…。

５月の連休中、久しぶりに自由に使える時間ができた私は、日々没頭している個人的な研究を実践の場に移し、その成果を自ら検証すべく、フィールドワークに出かけました。場所は自宅から２時間、皆様もきっと行ったことがあるであろう三浦海岸です。春の陽光に照らされた海岸は家族連れで賑わい、みな一様に楽しそうです。そんな中、目を血走らせ、鼻息を荒くした漢一人が海に向かって何かを振り回しています。客観的には異様な光景ですが、本人は大まじめで研究に没頭しています。その研究とは・・・。

「子曰、知之者不如好之者、好之者不如楽之者」（意訳：努力するものは楽しむものに及ばず）

私は子供の頃から怠惰でした。宿題があってもやらず、もうどうしようもない、という段階になってやっと始める子供でした。それは今も基本的に変わっていません。現にこの原稿も締め切り後、担当に急かされて書いているくらいです。そんな私が、大した成果も挙がらぬこの研究を続けているのはなぜか…楽しいから、楽しんでいるからだと思うのです。

何かの目的の為に、ひたすら努力、忍耐、我慢する、つまり他律的で自らの意思でないことに対しては、何をやっても長続きしませんでした。逆に好きなこと、楽しいことに対しては、努力しているという意識すらなく、無限に没頭してしまうところがありました。能動的な意思（主体性）があるかどうかが重要で、私にとっては「研究」＝「楽しみ（遊び)」でした。

これを子供の「学び」の視点で考えるとどうでしょうか。やり方を教わって、それを繰り返しのトレーニングによって忠実にトレースできるようにして、その正確性や早さをチェックし、競う・・・。できなかったことができるようになる喜びはあるでしょうが、そこに楽しさ（主体性）は見いだしづらいかもしれません。たとえ失敗しても、自分で考えて試してみるところに学習＝遊びの楽しさがあるのですから。子供たちには、「学び」が本来とても楽しいものだということ、そして「学び」は、学校の段階で終わるのではなく、人生のずっと先まで続く「愉しみ」であることを分かって欲しいと思います。そのための一歩、自分の好きなことを見つけ、失敗しつつも、それをとことん楽しむ「遊び」をたくさん経験してほしいと思います。楽しさや好奇心は、全ての知的活動の源泉です。

最後に今回の研究及びフィールドワークの成果についてです。５月の三浦海岸において、私に釣りあげられてしまうような、おっとりとした魚は一匹も存在しない、と結論付けられたことを報告したいと思います。同時に、認識と行為は一致しない（分かってはいるけどやめられない）ことを再確認したことも付け加えたいと思います。